

山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
Ⅰ. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
Ⅴ. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用
項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム敬寿園
（ユニット名）	すこやか
所在地 （県・市町村名）	山形県山形市
記入者名 （管理者）	細谷麻奈美（大類節子）
記入日	平成 19年 5月 22日

山形県地域密着型サービス自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を玄関前に掲示している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のミーティングで、理念に基づいたケアを目指し、意見交換し、意識、ケアの方向性の統一を図っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念を玄関前に掲示する事で、面会時に家族にも目を通して頂いており、入居時にも説明行っている。また、日常的にドライブや買い物に出掛けたり、地域の催し物への参加をしている事を家族に説明し、理解を得ている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	立地条件により、気軽に立ち寄れる場所ではないが、園の夏祭りやバザーに参加して頂くようお願いしている。また、地区の盆踊りや文化祭等に参加したり、地元の中学生のボランティアを受け入れる事で、交流を促進している。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の盆踊りや文化祭に参加したり、園の夏祭りには各地区に参加依頼をしており、地元の人々との交流に努めている。また、子供神輿が訪問し、園内を回り、お神酒を頂いたりお捻りを渡したりと、地域の子供達と触れ合う機会がある。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人として地域包括支援センターがあり、そこが窓口になって取り組んでいる為、グループホームとしては行っていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価への取り組みを通して、良い点、悪い点を見直すと共に、評価の結果は職員がいつでも目を通せる場所に掲げている。また、改善点は優先順位をつけ、具体的な改善策や方向性をミーティングで話し合い、改善出来そうなところから順に取り組んでおり、一定期間を終え、評価、感想を話し合っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3回行ったが、1回目は自己評価、外部評価の結果の報告、2回目は運動会、芋煮会への参加、3回目は家族会へ参加して頂いた。入居者や家族と直接触れ合う事で、直に見る事や聴く事ができ、グループホームを理解して頂けたと思う。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	H18年度までは紙オムツ支給の件で連絡を取る機会があったが、H19年度からはグループホームは紙オムツ支給が適用外になってしまった為、市との連絡調整は今はない。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	自ユニットでは現在制度を利用している入居者はおらず、内容についての理解が不十分である。	○	今後そういった必要性が出てくる可能性を踏まえて、他ユニットからの情報収集、各職員が学ぶ機会を持つ等、必要時に支援出来るように努めていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修に参加し、その内容を他職員に伝え、共有している。また、常々職員同士でケアのあり方を話し合うように心掛けており、お互いを注意し合う事で虐待防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際は、重要事項説明書を用い、入居者、家族に十分な説明を行い、不安や疑問の解消を図り、理解、納得を得て頂いている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を設けており、詳細を玄関横に掲示し、入居時に家族、本人に説明している。また、介護計画を作成する際は、本人もミーティングに加わり、希望や苦情等を直接聞く機会を設けている。また、運営推進委員と入居者が接する機会を設けている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には日頃の様子を口頭でお伝えする他、ケース記録や出納伝票、アルバム等に目を通して頂いている。通院後等家族と連絡を取り合う機会を持ったり、3ヶ月に1回程度瓦版を発行し、園での様子を家族にお伝えしている。また、家族会を開催し、要望の吸い上げに取り組んでいる。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を設けており、詳細を玄関横に掲示しており、入居時に家族、本人に説明している。また、介護計画立案の際は、家族の意見を取り入れるようにしている他、面会時や家族会等の機会を通して、意見や不満、苦情を伺うようにしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は各ユニットの朝食に1週間毎参加し、現場の職員の意見を聞く機会を持っている。また、全職員での新年会や歓迎会等で、運営者や管理者と直に話す場面も設けられており、現場の職員との情報交換の機会となっている。また、自由に意見を述べる事が出来る、「よろず箱」が設置されている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の生活全般にわたり、処遇支援し、状況を把握できるローテーションとなっている。また、花見等行事の際には、その場に合った人数が確保出来るように調整している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	必要最小限の職員の異動はあるものの、入居者へのダメージを防ぐ為に、職員間での引継ぎや利用者への説明を十分に行っており、ダメージは見られていない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や外部の会議等に参加し、学習する機会を設けている。研修後には報告書を提出し、全職員が供覧している他、全体朝礼にて口頭で報告している。また、的確に助言出来る人材は確保されている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換研修やその他の研修へ参加する事で、地域の同業者との交流の機会を持ち、互いの悩みの相談やケアへの提案等を話し合い、それらの報告書を通して、全職員が共有し、ケアの質の向上に努めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	全職員での泊りがけの研修旅行、新年会、歓迎会等を開催する事で、職員相互の親睦を深め、悩みやストレスを吐き出せる環境を作っている。また、自由に意見を述べる事が出来る「よろず箱」が設置されている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	それぞれの職員の各種報告書や管理者その他からの情報等により、それぞれの職員の努力や実績、勤務状況を把握し、それに見合った配慮をしている。また、資格取得した職員に対し、希望も踏まえた上でその資格を生かせる事業所や勤務地への異動等、配慮している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申し込みの段階で、事前面接を行い、直接本人から話を聴く機会を作っている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申し込みの段階で、家族の不安や要望を伺い、ホーム見学時にも家族等と直接話を聴く機会を設けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の「その時」の状況を把握し、職員と家族とが十分に話し合う事で、その状況に見合った支援を見極め、他サービスの利用も踏まえた上で検討し、できる限りの対応に努めている。		
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日常生活のあらゆる場面を入居者と一緒に行い、その時々感情を共有する事で入居者からの信頼を得、入居者の特性や心情を理解出来るように努めている。また、日常のあらゆる場面に入居者の持っている知恵を引き出せるような関係作りを心掛けている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時にケース記録を閲覧して頂く事や職員の説明により、家族と職員が入居者の身体、精神状況等の情報を共有し、今、入居者にとって必要な事が何であるのか、互いに意見を出し合い、協力体制を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前の十分なアセスメントと、入居後の本人と家族との関わりから入居者の家族関係を理解するように努めている。また、面会時家族と入居者が一緒にゆったり過ごせるような環境作り、芋煮会や夏祭り、運動会等、家族と交流する場を作る等の工夫をしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族からのアセスメントを十分に行い、馴染みの理髪店を利用したり、本人の家の近くにドライブに行く等の場面作りをしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	それぞれの入居者の特徴や得意分野を理解した上で、それに合った場面作りを行う事で、入居者同士がお互いを支え合う環境が出来ている。また、職員が入居者の人間関係の特性を理解し、食席を工夫する事でトラブルが起きないように配慮しており、トラブルが起きた際は、大きくならないように必要なケースにおいては職員が仲介に入り、対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用終了後も必要に応じ、本人や家族が孤立しないように、他サービスの紹介等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に対し十分なアセスメントを行うと共に、日々の生活の中の何気ない言動や行動も見逃さず、入居者の思い、意向が何であるのかを職員同士、また家族も含めて話し合うようにし、把握に努めている。また、選択、決定の場面では入居者にわかりやすい言葉で伝えるようにし、入居者の意向を尊重出来るような対応をしている。コミュニケーションの取りづらい入居者に関しては、表情から汲み取れるように対応している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係機関からのアセスメントを十分に行い、入居者の生活歴を理解し、それを考慮した上で、入居者が自分らしい生活を送る為に何が必要なのかを話し合い、取り組んでいる。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	アセスメントや各種チェック表を用い、入居者の状況を様々な面から総合的に理解し、サービスに反映させている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各種アセスメント表を用いて、ADL面のみならず、入居者の人物像を理解すると共に、介護計画立案・見直しの際には、本人・家族の希望を取り入れている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを行い、その際は本人・家族の意見を積極的に取り入れ、状態が変化した際は、家族への報告を迅速的に行うようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌から日中帯は黒字、夜間帯は赤字で分かりやすいようにケース記録に転記している。また、夜勤、日勤交代時の口頭での申し送りと、申し送りノートを使った申し送りの徹底を行っている。毎月1回職員全員参加のミーティングを行っており、そこで介護計画の作成、見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共的施設などの協力を得ながら支援している	年2回、消防署を交えた防災訓練が行われている他、図書館やスーパー、レストラン、カラオケボックス等の繰り返しの利用により、地域との協働が出来ている。また、小、中、高等学校より、ボランティアが定期的にあり、入居者と触れ合う機会を持っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	H18年度までは紙オムツが支給されていたが、H19年度からはグループホームは紙オムツ支給が適用外になってしまった為、申請していない。また、高額介護サービス費支給手続きの支援も行っていたが、途中からは自動的に振り込みになった為、手続きがいなくなった。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	常に協働できる環境にはあるものの、現在必要とする入居者がいない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、通院方法を本人・家族と相談した上で相互に協力し合い、職員または家族付き添いにて本人の希望する医療機関に通院している。医療機関の変更の必要がある場合は、本人・家族の同意を得ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	相談したり、治療を受けられる協力医療機関があり、そこに専門医がいる。また、地域に脳神経クリニックがあり、気軽に相談できる環境にある。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日常的に状態を把握している看護師が管理者である他、他事業所にも看護師が7人おり、気軽に相談でき、なおかつ容態急変時にも迅速に対応出来るような環境が整っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際は本人の負担を少しでも軽減する為、医療機関に対する本人の現在の心身の状況等の情報を提供し、退院に向け、今後どのような支援が必要であるのか、本人・家族も交え、話し合いを行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時のアセスメントの中で、終末期をどこで迎えたいかを、本人・家族に伺っているが、現在まで看取りを行った事がない。	○	早い段階から、重度化した場合や終末期のあり方や対応方針について、本人・家族を交えて話し合う必要がある。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	自ユニットではそういった事例はないものの、他ユニットの事例を参考にしている。	○	重度化や終末期に向けて、家族の意向を尊重した上で、ケアの方針や事業所の「できること・できないこと」の見極めを、職員同士で話し合い、かかりつけ医を含め、統一したケアを提供できるように取り組む必要がある。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居者が別の居所へ移り住む際は、次受け入れ先に現在の本人の心身の状況やこれまでの経緯、職員の関わり方、本人の好み、習慣等の情報を提供し、これまでの暮らしが少しでも継続していけるような働きかけを行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等の個人情報の取り扱いには、職員一人ひとりが配慮しており、プライバシー侵害には至ってはいないものの、思い込みの強さから他入居者への悪影響を及ぼす場合には、その入居者の思いを否定してしまったり、誇りを損ねてしまうような言動を取ってしまうことがある。	○	本人の思いを十分に傾聴し、理解した上で、他入居者に及ぼす影響を考慮しつつ、本人の尊厳を守る為の工夫や対応策を話し合う。また、統一したケアを行えるよう、随時対応に対する反応等を伝え合うようにしていく。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	最低限の規律ある生活を維持しつつ、職員側で決めた事を押し付けるのではなく、複数の選択肢を提案し、入居者に決めてもらう場を作っている。意思表示が難しい入居者に関しても、毎日の観察やアセスメントにより、好みや特性を把握し、本人の希望に少しでも寄り添えるように心掛けている。	○	現状に満足する事なく、支援出来ているつもりになっていないかどうか、職員それぞれが見直すと共に、職員全員で話し合っていく必要がある。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活とのバランス、日課等を優先してしまう事があるものの、日々の生活の中で、一人ひとりの生活パターンを理解し、強制することなく、尊重した支援を心掛けている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その日着る服は入居者自身に選んで頂いている。理・美容院の利用については、馴染みの店がある場合は継続して利用して頂けるようにし、そうでない場合においても、入居者の希望に合った店に行けるように支援している。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力に合わせ、食事準備や後片付けを分担している。また、食事中、食後の会話を楽しむ事で、ゆったりとした時間を過ごせるように支援している。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	自宅にいた時から飲酒の習慣がある入居者には、引き続き飲酒出来るように支援している。また、事前に入居者の嗜好、習慣を伺い、把握したうえで、一人ひとりの状況に合わせて対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し、入居者の排泄パターンを把握し、適宜声掛けやトイレ誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜桜見学等夜間の行事がある時以外は、在宅同様、毎日夜間帯に入浴を行っている。入浴拒否が聞かれた場合は、更衣行い、最低限の清潔を保ち、けして強制的にならないように対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動に力を入れ、安眠につなげている他、睡眠チェックを用い、一人ひとりの睡眠パターンを把握している。また、疲労や眠気が見られた場合は、休息を促す声掛けを行い、適宜休息をとって頂けるように対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの生活歴から、特技や好きな事を見出し、それに見合った役割活動や行事、余暇活動(書道教室や畑仕事等)に参加して頂く機会を設けている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った際は、お預かりしているお小遣いがある事を入居者に伝え、本人がほしい物を自ら購入する機会を設けている。また、希望がある場合は、家族の方と相談し、小額を所持して頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や入居者の希望に応じ、ドライブ、買い物、外食、散歩等、外出を多く取り入れるように支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望が聞かれた際は、家族の方と相談するようにし、実現出来るように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に合わせて、手紙や電話の支援を行っている他、贈り物を頂いた際には、職員から声掛けし、お礼の電話を出来るように対応している。また、家族にも住所、電話番号、FAX番号をお伝えし、入居者との交流を図れるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間を制限する事無く、面会に来られた際は居室や共用スペースの和室等、落ち着いて話の出来る場所へ案内し、湯茶等を提供する事で、居心地良く過ごして頂けるように対応している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修に参加する事で、その内容と弊害を認識している。また、家族や主治医と相談した上で、身体拘束をしないケアを実践している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	日中は玄関を開放しており、安全対策の為にドアに鈴をつけている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に食堂、居間等入居者を見守りやすい位置にようにしており、休息時、夜間帯等、入居者が居室で休んでいる場合には、定期的に様子を見るようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤等は、入居者が誤って触ったり、口にしたりする事のないように保管しており、常日頃から見守りの徹底を心掛けている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	救急マニュアルがあり、職員それぞれが目を通してある。また、状況報告書を作成し、各ユニットに配布し、供覧する事で再発防止に努めている。また、事故に至らなくてもヒヤリハットノートを作成し、記入し、各職員に報告することで、危険への気付きに努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当のマニュアルがある他、定期的な心配蘇生法やAEDの講習会を行っている。また、事故報告書にて他ユニットで起きた緊急時の事例を閲覧し、参考にしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練を行っている。また、地域消防団に協力をお願いしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居者のADL面及び精神面での低下、日々の状況、状態の変化を随時家族に報告し、それで起こり得るリスクについても家族に十分に説明し、納得していただいた上で対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の観察やバイタルチェック、月に一回の体重測定、食事や排泄などの各種チェック表を用い、状態変化の早期発見に努めている。また、異変が見られた際は、園の看護師やかかりつけの医師に連絡を取り診て頂く等迅速な対応に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの薬の説明書により、内容を把握している。服薬時毎に手渡しし、声掛け、確認し、必要な方には介助行なっている他、服薬の時間帯や、薬の内容に応じて、ホッチキスで一纏めにする・袋を別にするなどし、誤薬防止に努めている。また症状の変化に敏感に気付くよう、職員一人ひとりが入居者の観察に努め、他職員への報告を怠らないようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便の状況を把握すると共に、毎日のラジオ体操、みんなの体操の実施と、水分補給の徹底、食事の工夫等により、便秘対策に取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	職員介助者には、毎食後の歯磨きの徹底と夕食後の義歯洗浄を行っているが、自己管理者の方にも声掛けを徹底し、必要に応じて一部介助を行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1600kcalに合わせている他、食事の残量をチェック表に記入している。また、入居者の好みや、咀嚼・嚥下の状態に応じて食事の内容を変えたり、刻み食にする等し、カロリーの過不足、栄養の偏り、水分不足が起こらないようにしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居者、職員共に、毎年インフルエンザ予防接種を受けている。また、対応のマニュアルもあり、感染症に対する予防に気を配っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は使用の度に清潔にし、冷蔵庫は必要に応じて清掃を行っている。また、布巾は毎食後洗っており必要時消毒を行っている。食材は鮮度を保てるよう速やかに冷蔵庫に保管し、1～2日で使い切るようにしている。また、冷蔵庫の温度管理を行っている。		
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に表札を設置し、玄関・テラス周りにプランターを置き草花を眺められるようにしている。また、ホーム横に畑を作っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	人数に適したスペースと家庭同様の調度品の設置、入居者の作成した日めくりカレンダーや行事の写真の掲示等、家庭的な雰囲気を有している。また、テレビの音量は状況に応じて調節、こまめな換気、汚染物の臭いがこもらないような配慮等、居心地の良い環境作りに努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には食堂・居間・和室の3つのスペースがあり、また天気の良い日にはテラスも活用し、入居者が1人で新聞を読んだり、気の合う入居者と談話したりと、思い思いに過ごせるよう工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の居室には、使い慣れた家具を持ち込んで頂いたり、入居者の趣味や生活パターンに応じた家具や調度品その他を設置するようにしている。また家族の写真や花を飾ったりと、入居者、家族とも話し合いながら、その人らしい空間作りに努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除時や調理時等臭いの気になる時はこまめに換気をするように心掛けている。また、トイレは常時換気扇を回し、汚染物は臭いがこもらないように新聞紙に包んで捨てるようにし不快な臭いの排除に努めている。室内の温度は入居者一人ひとりの反応を見ながら適切な温度になるよう調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、玄関、玄関通路、廊下、トイレ等に手すりを設置し、台所シンク前のマットに滑り止めを使用している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや居室・下駄箱にはさりげない目印をつけ場所間違いを防ぐと共に、入居者の不安や失敗を招くような環境・物品に関しては、職員同士で話し合い、少しでも混乱を防ぐような環境づくりを行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホーム脇にある敷地を利用し、入居者と一緒に畑を作り、花や野菜を作っている。また天気の良い日には庭先で日光浴やお茶を楽しんでいる。テラスには入居者が洗濯物を干せる高さの物干し竿を設置したり、掃き掃除が出来るようにほうきとちりとりも常備している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・できる限り、家庭生活の延長を送れるように支援しており、夜間帯入浴する事で、日中の時間を有効に活用しており、ドライブや買い物に行く機会を多く持つように心掛けている。
- ・入居者の残存能力を見極め、一人ひとりができる事を毎日の役割活動を通して発揮できるような支援に努めている。